龍王太郎四第集

全四冊

式亭小三馬作

へ13
3699
4

門 へ13
號 3699
巻 4

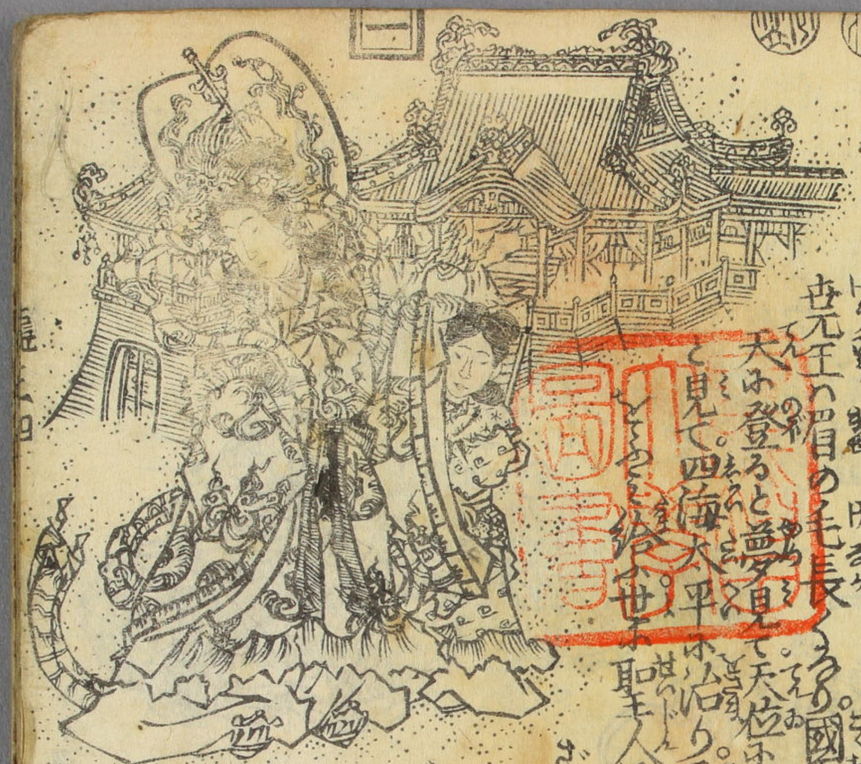
龍王太郎英雄譚

武亭かゝ馬作

一陽齋豊國画

第四編
上之巻

弘化戊申春 藤慶梓



元正の眉の毛長く垂て。國中を見て王位に登り給ふ大舜い天に登ると夢見て天位に給ふ。國朝のそい神武帝海と春見て。四海大平に治り。天武の帝の山とぐろと見てゝる位ゝ。聖人更に無ふ非ず。真人の物の理に通暁き。心廣く寛

うの夢ふ。妄想の夢ゝとゝ我ゝ。

されど天下固に松と見て三公の位に登り。政子の姫の夢と求め。尼将軍とゝられ。れ前に著く。龍たゝ雷館と。此編に於梅が神女に見夢に共に日尺英雄烈女の一雙の正夢也。偶然たるべき天縁の

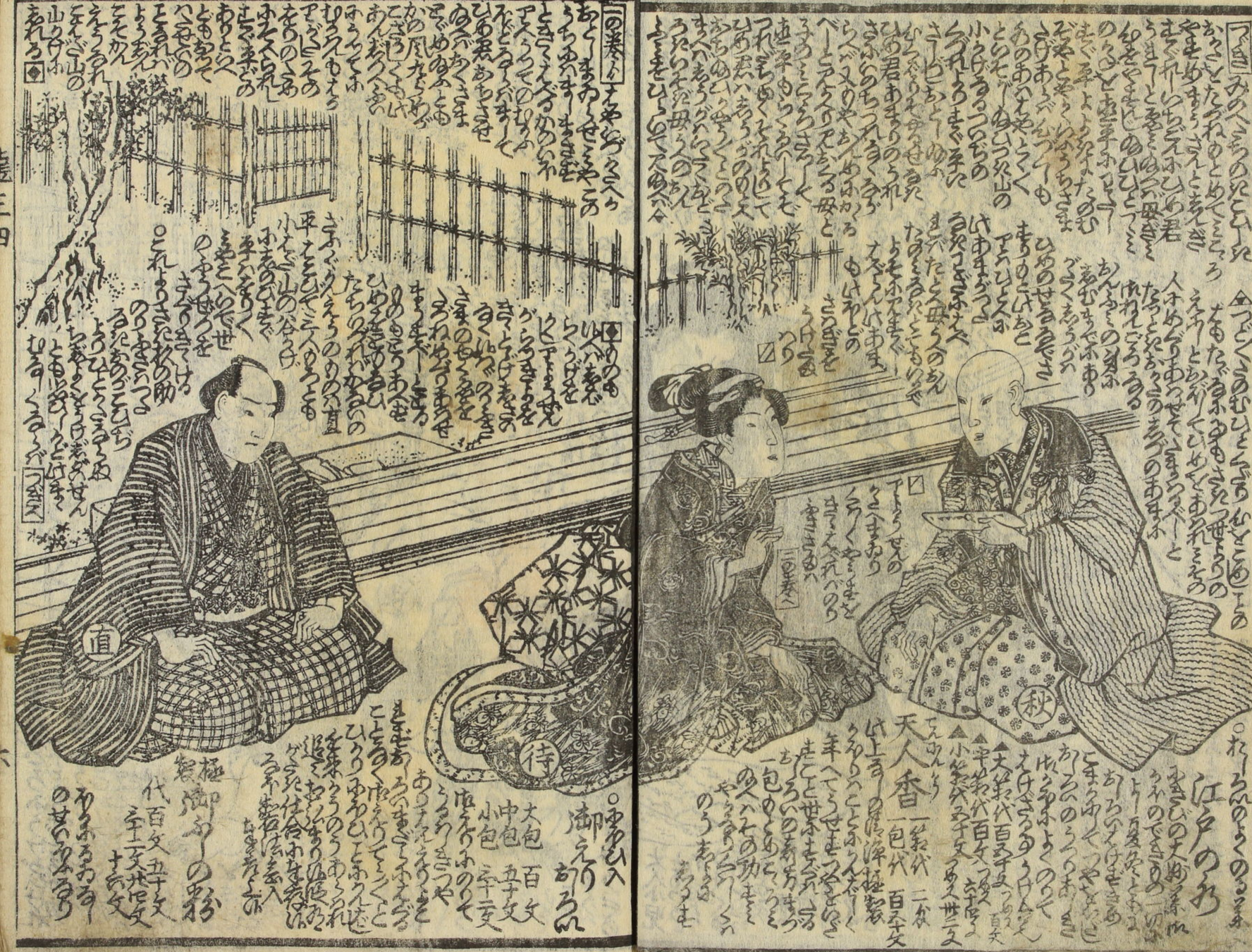
再出
蘭の女児
於梅
實ハ安倍家の息女
此花姫
御士
蘭
臭若備門
魔仙道人
妖術を行
仙術とえせ人
惑ハ仮ハ耶魔の
井の翁
或ハ
児玉姫と
と変ず六本則房と魔
道ハ引られ邪法の一巻を授る
昔趣を残せる夢見種蝶
子う草子の丁数部郭
魂膽の枕とくぐくとの程の深い
案ずれば智慧のそ夢う現の狂
作も盧生ふわゝぬ渡世の傍
本町庵のあゝ
弘化戊申春 小三馬戯題

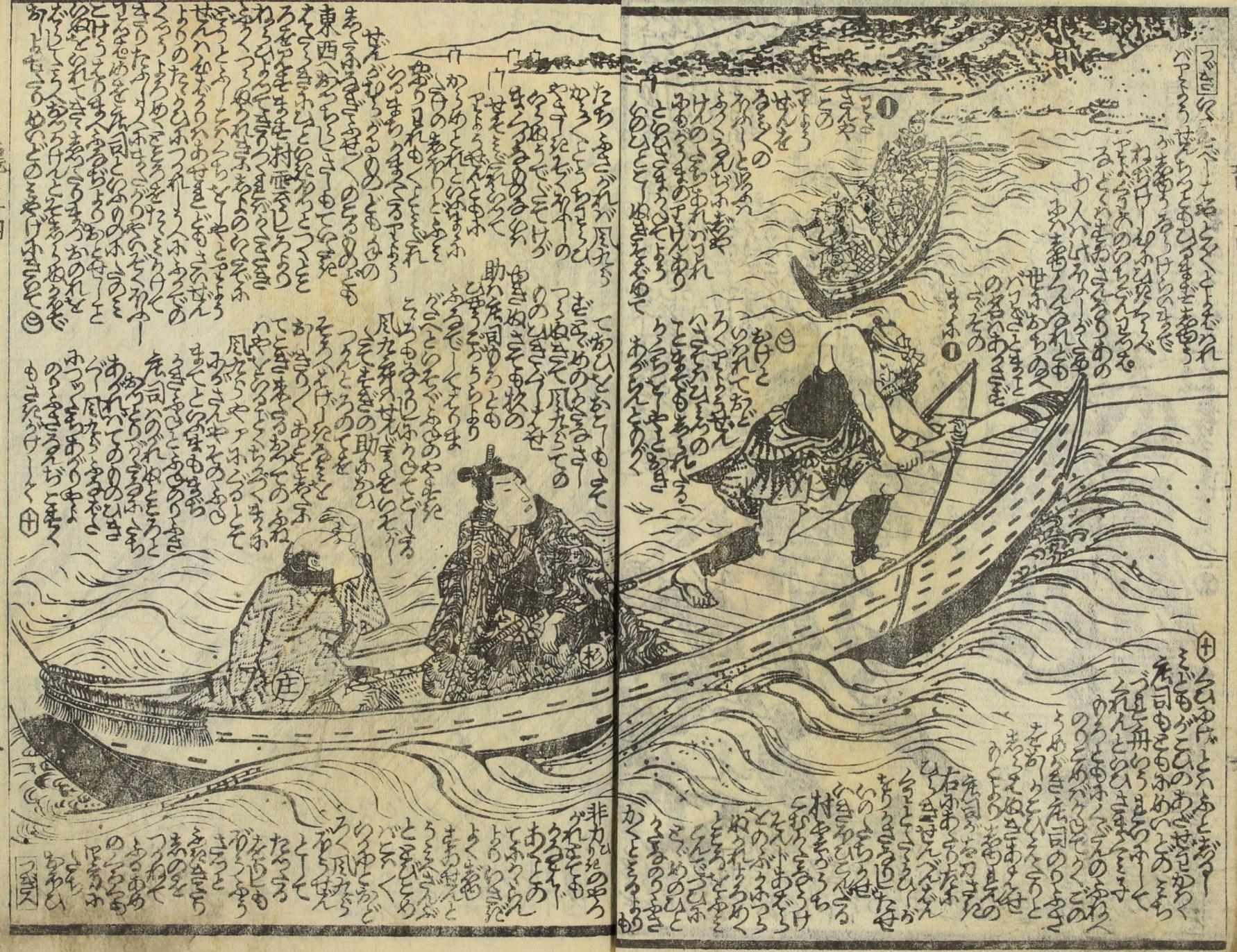
再出
六本杉之助
則房
立交満祐ゞ逆意
と信ト並ク妖術ハ達ー
後次賊の首領とろ飛行自在の
再出
働きとろー早業の手の内まるどく自
称して天狗次郎苦四雑杰公とゆくり
直平
柳
壬次
待宵姫
山名の息女

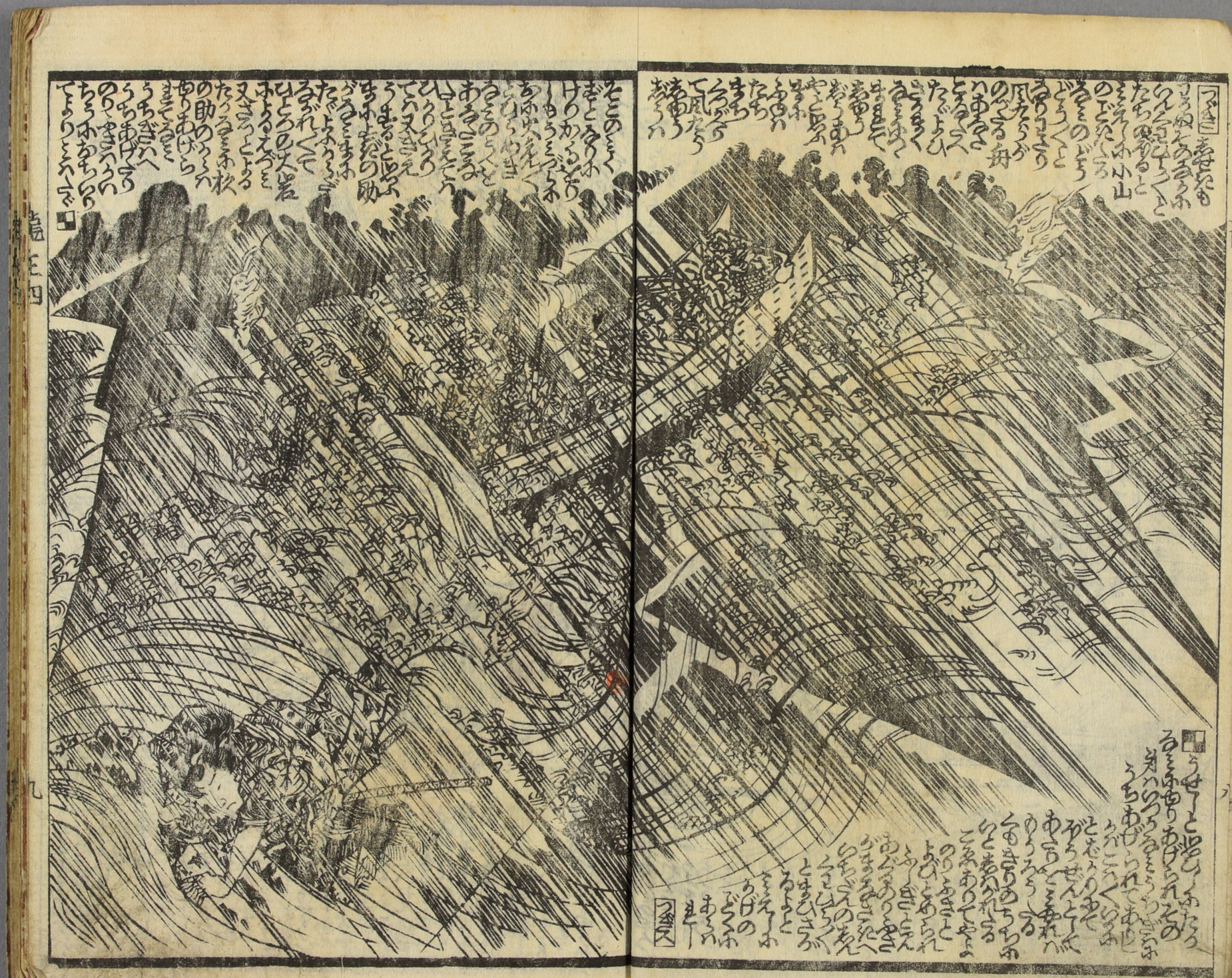
山名
風

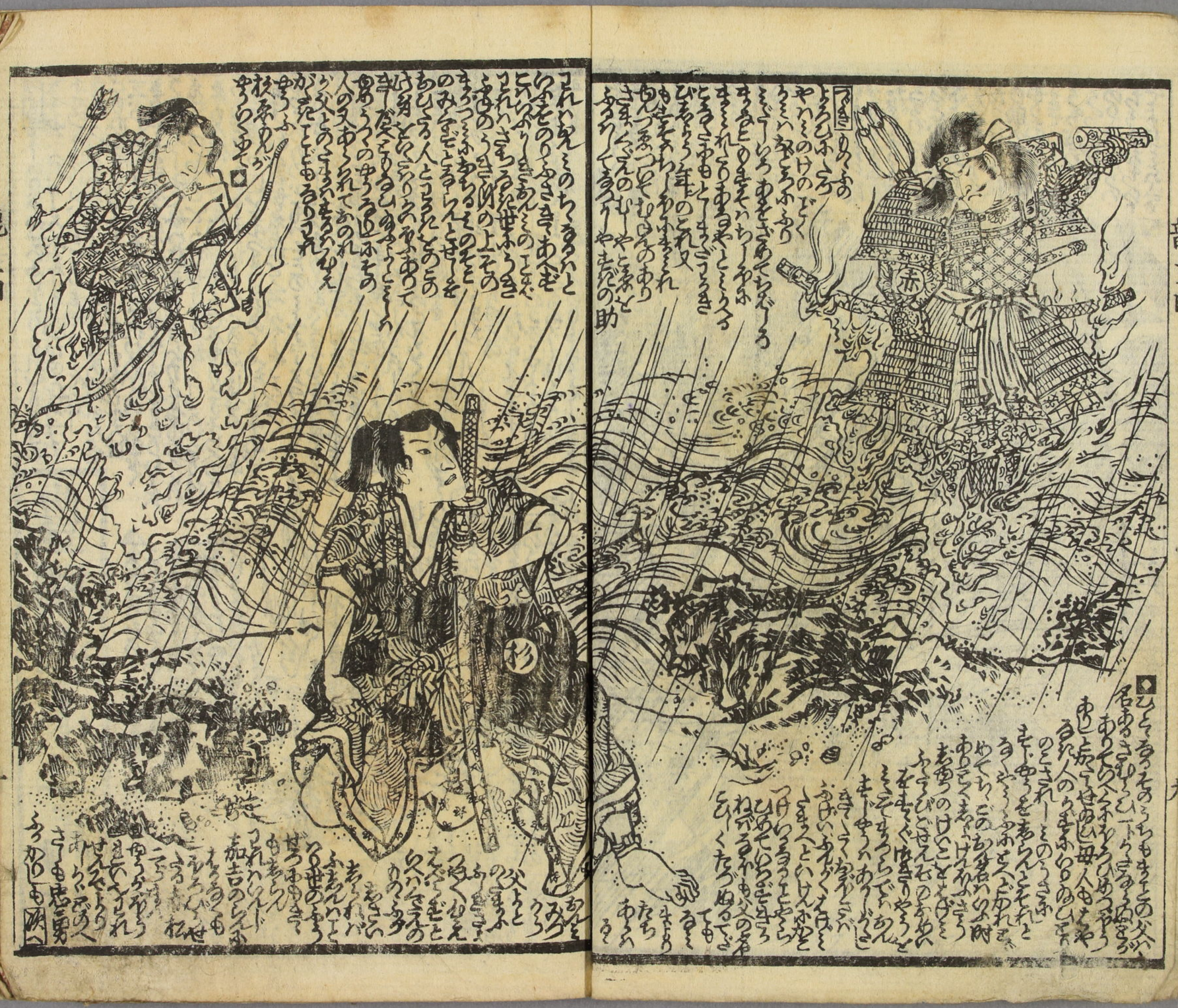
つゞきのちの世たのしくそまろ
あやとく世ときくとはいめで
あるんのちの世とぞもたのしく
ゆくもうらうらきたりてとゝり
まてくさたくさまのまろ
あどろかしやとけもさとや
きそこゝろをゆくまやのやら好
さいとうろくゝふふのもせんせの
ぐらのひくつゐいきふきゝまぬ
のめ名ふゆうもとぬぎの
あるうのやまちとうぐくちふ
くゝいちゝしのうくれうきまろむ
こうゝとゝとあるりめされつて
あとゝとべこのくまわくするゝろう
とゝの母うくやとゝりくるくまゝと
うゝふあくかをゝくどたうたくどく
あゝるぬひさえを母さのゆす
まのそとえくちまのひさもふ
るけきふゝきくれてくるゝる
むゝとあゝあづめゝすきひくゝそ
のうひゆくゝ母ふかれそまるえとい
をいきくゝもうきゝゆるゝくゝ
ゝ思ひつめくるゝとくゝくのそくせのまだ
まりるゝくゝ人くゝのちゝとそくべゝ
ゝのちゝるくゝあゝくゝとゝきゝ今のゝ行くゝる
ゝくとびとゝるくゝせけんふゝくゝあゝとゝ
ゝの人のたくうふまゝくくまくべゝ
ゝくゝそゝのごをゝのそくべゝひゆく

図 武蔵形 とゝらんあゝとふゝさゝえてゝにゝらゝきゝのゝのゝとゝ
たゝれてゝきゝゝもゝあゝあくゝゝにゝれゝくゝさゝくゝのゝあくゝくゝ
せゝゝゝゝくゝかゝくゝくゝゝくゝくゝゝくゝくゝ
くゝくゝくゝくゝくゝくゝくゝくゝくゝく

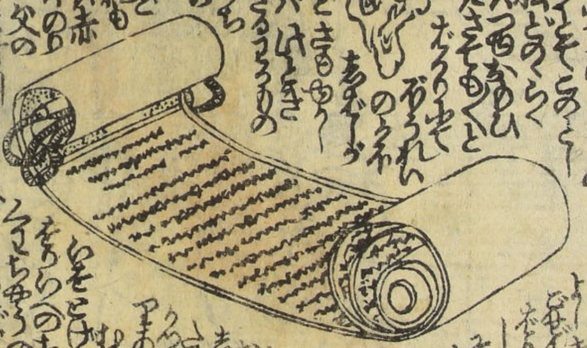

つゞき
秋
直
待
天人香
極御用の粉






赤
杉

豊國画 小三馬作



腎水不順を治せる名方

天女丸

價 百二十四文

一月 五十文
半貫 廿四文

仙傳人參卵効油

・月さのけいすあらこ・ゆれバさあめぐのぞ・ひとつのゆえ・ゆくこれを用ひてつうじさたるが
よう！・いろわどくいきふまあんもつわ・ぬるくこ・まげくく子をうゆ人ゆ茶用ひぞうゆく
行ケ年もくさいわんせぞのえやしたこと・ろとあつ・茶をゆ子むべ・その月よりくさのゆんするゆ
自ちのまち方こ・つよきくすりふあ・ぐあ・ひとうけあひあり・ゆ・ゆく
ひろむるわどの茶ゆれバそのきづひ・ひゆくひをゆそんじて用ひのみべ・

・うちとくうちきた・きりきぞ・きりこう・ひ・ち日ゆけ
・あくぎれ・ゆけど・男女ちとの中ゆわのできもの・うきが・こ・ざれ
・耳のつこ・ゆ・ちこ・えもの中のできもの・ざこり・こ・んど・ゆ・ずれ
・どくむ・ふさ・れる・冬のくづれ・ぬくかくじどこのでものの或
きぞそ又ハいさ・又ハゆきふよ・・又これをふところゆた
まバねろ・ひゆ・ゆ・ひをうけぎるりゆ・ゆ・り

引風一夜ゆ

四季一名調氣湯

ゆりじ
わさ袋入 代廿八文

本家 江戸本町二丁目北側中程 式亭三馬製

香蝶樓豐國画

下

小三馬作
豊国画
弧作戌中
吉
松林堂壽梓
国麿画

三の巻
枚

梅

貞
北
南
梅

つゞき

○江戸の水本家式亭　制茶　茶屋　店
金勢丸　代百文　五十文
龍樹散　代二十六文
夏の酒一切ふ上

○式亭舗　正制裏茶
婦人三養湯　大包百文
小包五十文

蘭奢代衣　代金二朱

あの〻まゆの
代　五十文

○武亭案 沖名の あづまや 系おろの 五妻香 相 一 お五ト 結 代 五 ト

代 百文 五十文 三十二文

入 た

成多丸系 あつもり 鼻薄化粧 大色百文 小色五十文

代 五十文 代 五十文 代 五十文

つゞき たち丸はうつとうぶまつこぶくとり
勇姫ふめどりあいんやう二面の
めいきようそうひぎをくてぐたちぢの
のとひとひくくことぶせいうんのかけくく
るりとあらぐきぬーのまーやうはあ
けのけらのるりしりそのくまおあはいはたた姫
とそあべけのそくはるるくとふるやくくの
ゆめのあやしびふぐきふにといろ丸い
るれかのりふまさきようのえ
神のこちびきふそあらぐぎ
ぬーとたち丸のくこふ
まぢくろうとあくー
あはあらぐきぬーひこそう
えゆのこをとひとちん心たぐーた
たち丸の父君ふつげぎーて
ふうふとるくーんいこちわあう
ぎとろるくーぎらるむとまるぐ
さくぶ天孫まるくーたふうふの
あぐー月月とまぐさんりり
てんいふめとるのつくふー
とをくちんこのあるー
ぐこくとかのち
つくーーゆく
そのとらっ
なるるっ
ざるあとハ
そるネを

つぐき 山の角ちんぐえおのでくきとのりりる
るるしめうるるーたつやとらぐぎも
せうげつくをあんまるたけ 雪月花御眉刷毛 彩飛ゆ
さくちたぎうたくう 嬉中 山縣ぢの
ふ代二文こと
。ちゆとけいうのけと
ぐとこ
うのけそ
つくれべ
はるるよ
あくり
ちくるひ
ちのるよ
列てとう

神女のこうげいで
たけけとこち
あるりいるたるる
あくひいちぎ
父ぐ妖さあ
ぐたくこどるて
たち丸ぐ「卵のある
ぐるよけるの今ちん
せうここのぐきも

つくりかのりくのやくもよりあくらぎぬーがに心
たくぐくひめが勇姫ちう貞烈ぢうるくくぶ
ことぐのたぐ
ざるとまるて
くくくくくるを
やまくーーくまくと
ありくくとのあるまくせ
ぐぶるるくぎる神女のつげかーこの
やうまくとくくそのくこのまくとるるくばくく
このぢくとりくきくよくとあるきくくきもかぐぢやくるを
まるりくとふくくくるふくくちくくんやゆくまるるくる
くくりるきくりくくこのくぐのやくくまくちくくるちくくと
ゆくでくりけくくまるりくくやくくふかるくー
ぐるくんくまくいくくくぐくくくく

豊國画　小三馬作

寒晒　ほうあんの粉　煙管堂

袋入代六十文より
打造古好次第仕い

一名　八重霞
一名　きりしま
一名　赤玉
一名　かゝみ紅
一名　月の友
一名　冬牡丹

小児　万病　龍葵丸　疳虫丸

両藥入　價百銅

小児六ん　一きやうふう　一切一きい
一ぐろそう　一ゆめそう　一ちぶりそう
一そうきの　一ほそう　一よるき
一なのどく　一ちくせう　一ちをわる
一ちのこる　一あくこえふく　一ちをきめる
一目ちをせり　一つめをうを　一いろつをめく
一ひんのうの　一せむし　一ろん目とうち

主外小児疳病に用ひてこうのう
あり　きるゆ八歳出ちる
生の出用ひたり　つゝ軽い

以上書出し申上ル

此度賣弘所にて四方の御得意様方へ（以口上書出し申上ル）

大江邨の水ふさ地（赤小豆をバ一粒撰の胴一重濃風味宜く上不申）

上々様へ指上ル為て清き養方を出用ひ雪ハ砂糖を煮立その中へ右

干餅を撰交へ差上ル外産小芋某る幕代の砂餅

先初春の御年玉被成下子の垣根ようゝ年月を経て柏餅

まゝ六月暑寒の出入弟子ゝや月待ゆゝ中小せゝ元年の暑川

ひさうゆゝ出家例の餅の名ふつ自在の洲法四季打くの打造小袋入

おまゝ英雄小仕立出通拙ハ無利ようゝ対一ト世の出徳用その上

年を重るとも味さら風味の新しぬハ是ゝ極寒暑ゝし多ゝ御ゝ

御用向ゝ仕ゝ下ゝ振偏に幸帝上ハ以上

賣弘所　東都通り塩町きせる店

近江屋久兵衛製

龍王太郎英雄譚　四編　五編　六編　武亭小三馬作　一陽齋豊國画

五色染芋環冊子　二編　三編　武亭小三馬作　歌川豊國画

花白梅春風　初編　三冊　武亭小三馬作　一雄齋國輝画

昔新當世推故傳　初編　二編　立川焉馬作　歌川豊國画

東錦繪地本屋　江戸通油町南側　藤岡屋慶次郎